

# ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年3月31日～4月6日)

2020年4月8日

在ベラルーシ大使館

## 【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領、コチャノヴァ上院議長と会談(3/31)
- メーゼンツェフ駐ベラルーシ露大使、二国間石油供給問題に関するインタビュー(4/5)
- ロシア産石油、ベラルーシ製油所に輸送開始(4/6)

## 【ルカシェンコ大統領動静】

- スモレヴィチ地区を訪問し、農業企業大手セルヴオリュクス社を視察(4/3)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・そばのみの栽培について、ベラルーシ国内需要を満たすべく、生産拡大する必要がある。
- ・民間ビジネスは、資産の有効活用、利益の確保に加え、人々についても配慮すべきである。つまり、農村地域住民の生活の向上にも目を向けるべきである。
- ・地方行政は、定性的指標ではなく、生産効率性によって評価すべきである。

(4/3 大統領府公式ホームページ)

- セニコ国家税関委員会委員長の報告聴取(4/2)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・国境は、経済機能を測るリトマス試験紙である。私は、大型貨物自動車やベラルーシ国民、その他のベラルーシ国境における移動について情報を得ている。貴委員長の評価を聞きたい。
- ・ベラルーシの経済状況は非常に重要である。新型コロナウイルスは到来し、去って行くが、その後も生活は継続する。将来の生活は、今、どのように働くかによる。そのため、私にとって経済が最も重要なことである。

セニコ委員長の発言要旨は以下の通り。

- ・2020年1月～3月の貨物トランジット輸送量は、昨年同期対比増加した。輸入およびロシア方面へのトランジット輸送は8～9%増加であった。

(4/2 大統領府公式ホームページ)

- 国際テレビ局「ミール」のインタビュー取材対応(4/2)

国際テレビ局「ミール」は、大祖国戦争勝利75周年記念の特別番組の製作を行っている。ユーラシア経済連合、独立国家共同体における統一国家の相互協力が取材テーマであった。

(4/2 大統領府公式ホームページ)

- ニコル・パシニャン・アルメニア首相と電話会談(3/31)

両者は、両国のロシアから購入する天然資源の価格について情報交換し、ロシア産天然ガス価格が、国際価格に合っておらず、高い水準にあることを確認した。両者は、保健制度の機能と季節性感染症拡大の対抗策について協議した。

(3/31 大統領府公式ホームページ)

- コチャノヴァ上院議長と会談(3/31)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・大統領選挙について議論し、計画したい。大統領選挙延期について助言を受けるが、現時点で延期を必要とする根拠はない。
- ・経済について、ベラルーシでは、企業活動が継続し、人々が給料を受け取れるよう尽力している。私には、「トランプの公式」がある。私は、トランプ米大統領の「もし我々が早期に企業活動を開始しなければ、人々は新型コロナウイルス以上に、無職や飢餓により亡くなるだろう」という発言を気に入った。
- ・新型コロナウイルスの拡大を背景に、他の疾患を抱える患者のこと忘れてはいけない。新型コロナウイルス対比100倍以上もの人々が別の疾患で亡くなって

いる。ガン、心臓疾患、喘息、その他肺炎を抱えた患者がいる。

・大規模な自己隔離には賛同しない。狭い室内に人々を閉じ込めておくのは、正しい方法ではない。外にでて新鮮な空気を吸う必要がある。また外に出ないと、自分が健康なのか、既に何かに感染したのか分からないであろう。感染に気づいた時には、既に危機的状況にあるかもしれない。

・医療従事者には感謝している。ベラルーシでは、既に100名以上の陽性患者が完治した。我々は、保健制度の管理に力を入れている。保健制度は、時計のように正確に機能すべきである。他方で、陽性患者と接触した医療従事者が、適切な予防措置を取っていないことがあり、ヴィテプスクでは10名以上の医療従事者が感染した。

(3/31 大統領府公式ホームページ)

## 【外交】

### ●メーゼンツェフ駐ベラルーシ露大使、二国間石油供給問題に関するインタビュー。

メーゼンツェフ大使の発言要旨は以下の通り。

・ロシアは、ベラルーシからの問い合わせの全てを実質的に受け入れた。ベラルーシの頼みごとではなく、ベラルーシの問い合わせであり、これは絶対的な真実である。石油は、実質的にプレミアムなしで供給される。

・両国は、4月にベラルーシに輸送される石油の価格水準について協議している。

・私は、双方の問い合わせが現実的であり、友人を、隣人を、パートナーを圧するものではなく、何があつたとしても、それを壊すようなものでないことを祈っている。

・昨年11月に「供給バランスの合意」を締結した。第一四半期に発生した損失を考慮し、昨年11月に合意した分に到達すべく、挽回する。

・モズィーリ製油所、ノボポロツク製油所に、計2百万トンの石油が供給される。製油所が精製し、隣国や他国へ石油製品を輸出するために十分な量である。

・ガスについては、国際価格は落ちているものの、見

直しは検討されていない。国際市場においてガス価格は変動しており、全てのエネルギー専門家、ガス業者は考慮する必要があるが、二国間には既に合意が締結されており、これを履行する必要がある。

・現在二国間の国境が閉鎖されているが、これは政治的理由ではなく、人々の接触による危険を排除するための措置である。

(4/5 ベラパン通信)

### ●ロシア、ベラルーシに新型コロナウイルスの臨床検査キット10,000セット送付。

メーゼンツェフ駐ベラルーシ露大使は、本支援は、無償であり、これは、兄弟国間で形成された友好の印であると発言した。

(4/4 ベラパン通信)

### ●ベラルーシ、中国から新型コロナウイルス対策の人道支援を受領。

ベラルーシは、中国から、新型コロナウイルス対策の人道支援の一環で2000個を超える検査キット、防護服、赤外線体温計、防護眼鏡、使い捨て手袋等の医療品を受け取った。

今後、中国はベラルーシ向け人道支援を3度行う予定。2回目は、大使館による手配、3回目は中国の工場による手配、4回目は姉妹都市による手配が予定されており、合計4回となる。2回目の人道支援の規模は、1回目のものと比べ20倍に上るとされる。

(4/2 国営ベルタ通信)

### ●マケイ外務大臣、アラブ首長国連邦外務大臣と電話会談

両者は、新型コロナウイルス感染拡大に関する意見交換、二国間協力、貿易・経済事項について協議した。

(4/1 ベラパン通信)

### ●マケイ外務大臣、レインサル・エストニア外務大臣と電話会談

両者は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う、両国民

の母国への帰還に関する相互協力について協議した。  
(4/1 ベラパン通信)

●WHO, ベラルーシにドイツ製新型コロナウイルスの臨床検査キット 6,000 セット送付  
(4/2 ベラパン通信)

### 経済

●エネルギー省, 新型コロナウイルス拡大によるオストロヴェツ原発の計画変更を予定せず。

ゼニケヴィチ・エネルギー省報道官は、「同原発は計画通り建設されており、変更は予定していない。ただし、4月に予定されていた報道ツアーは中止となった。ベラルーシ国内で検疫は導入されておらず、オストロヴェツ原発内でも導入されていない。」と発言。

(4/6 ベラパン通信)

●ロシア産石油, ベラルーシ製油所に輸送開始

チシェンコ・石油化学コンツェルン・ベルネフチェヒム社報道官は、「ロシア産石油は当初決められたルートでベラルーシ製油所に輸送されている。輸送総量は、2百万トンである。契約署名プロセスは現在も継続中である。」と発言。

(4/6 ベラパン通信)

●スタンダード&プアーズ, ベラルーシの長期・短期格付けをBに据え置き。

財務省報道官は、「スタンダード&プアーズは、近年のベラルーシマクロ経済指標の改善、厳格な財政政策、債務管理政策の柔軟性、直近12ヶ月間の債務を履行できる十分な金準備保有高を有すると指摘した。一方、世界貿易の条件悪化、新型コロナウイルス拡大に伴う国内消費の減退により、2020年のベラルーシGDP成長率はマイナス2%になると評価した。」と発言した。

(4/5 ベラパン通信)

●木材パルプコンツェルン・ベルレスプロム社, 2020年1月~2月の輸出量, 去年同期対比11.2%増加。

(4/5 ベラパン通信)

●ユーラシア経済連合, 4月10日~6月30日まで、タマネギ、ニンニク、ソバ等の輸出禁止を決定。

(4/1 ベラパン通信)

### 内政・軍事

●サツク・インターネット通信社「日記(Ezhednevnik)」編集長, 釈放。

(4/4 ベラパン通信)

●教育省, ベラルーシ学校の春休みを6日間延長, 4月13日から授業再開。

(4/4 ベラパン通信)

●閣僚会議, 医薬品の国家登録簡素化に関する政令191を制定。(4/4)

(4/4 ベラパン通信)

●保健省, 自己隔離対象者に対する行動規則を制定

保健省は、ベラルーシに入国し14日間の自己隔離を行う人々に向けた行動規則を策定した。行動規則の概要は以下の通り。

・入国者は居住地を離れてはいけない。必要となる場合を除き、勤務地や学習場所、スーパー、ショッピングモール、大衆食堂、スポーツ会場、展示場、コンサート会場、映画館、駅等、大衆の往来がある場所への訪問をすべきでない。

・インターネットショップ等の商品のオンライン購入を行う必要がある。また配達員との接触を避けるべきである。

・石けんや消毒剤を用いて20秒以上の手洗いを行う、使い捨てのハンカチ、ティッシュをフタの閉じるゴミ箱やビニール袋に捨てる等、衛生対策を講じる必要がある。

・37度以上の熱、咳、息切れ等症状の悪化が見られる場合、SMSや103に電話をかけ、救急車を手配する必要がある。その際には、感染例のある国への滞

在歴や自己隔離の場所について連絡する必要がある。

同規則は、公式発表後に発効する。

(4/3 ベラパン通信)

(了)